

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。  
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。  
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力をお願い致します。  
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力をお願い致します。



# News Letter

2022年9月3回号 発行: 常総生協広報G



2022-23年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

## ＼新米／9月3回から水海道のお米 「めぐみちゃん」がスタートします！

めぐみちゃんとは、生産者である「東町特裁米耕作者組合」と常総生協がお付き合いを始める時に付けたお米のブランド名です。めぐみちゃんの産地である常総市は、一級河川の鬼怒川・小貝川に挟まれ、肥沃な大地が広がる米作りに好条件な地域です。コシヒカリの特徴である甘みと粘り気のある食感を、米作りのプロたちが最大限引き出しています。



**502001 水海道のめぐみちゃん(コシヒカリ)白米 5kg 特価 2,484円**

### 東町特裁米耕作者組合 会長 田口さんからのメッセージ (2022年9月1日)

日頃より「めぐみちゃん」のご利用ありがとうございます。  
今年は2～3月の遅霜や直近のゲリラ豪雨、高温など例年よりも天候が不安定でしたが、何とか順調に育っていると思います。今年は6月ではあり得ないくらい暑い日が続きました。丁度稲に実が付くタイミングだったのですが、高温により思うように実が付きませんでした。初期除草剤1回のみで一番大変だったのは「雑草」です。稲を覆い隠す勢いで、どんどん生えてくるんですよ！取っても取っても追いかけるように生えてくる、毎年ですが大変な作業でした。ようやく収穫時期を迎え除草はひと段落です(笑)。



今年は昨年に比べて「やや不作」というところでしょうか。それでも、鬼怒川、小貝川に挟まれた肥沃な土地を生かし、丹精込めて作りました。早いところでは9月上旬から稲刈りを開始します。今年もたくさんお召し上がりください！。9月24日(土)の稲刈り交流会もお待ちしています！

### ●常総生協とめぐみちゃんの歴史

#### ◆出会い

さかのぼること1993年。全国的な不作による「米不足」が発生した年です。この年、生産者や取引先からもお米の入手が困難だった時、私たちの地域の「東町特裁米耕作者組合」の皆さんが常総生協へ新米を全量出荷してくれました。

#### ◆農薬空中散布の廃止

当時、東町は農薬の空中散布が行われていました。常総生協では生産者に自然なままの安心なお米を組合員に届けたいと、空中散布の中止を提案をしました。最初は反対されましたが、頻りに田んぼに通う事でお互いの事を知るようになってきました。そして、生産者と生協が丸となり空中散布を除外するよう運動を始め、その2年後に空中散布の除外地域指定となりました。

#### ◆限りなく農薬をゼロに

めぐみちゃん(コシヒカリ)は「種」についてもこだわりがあります。水稻に感染する病害の多くは種もみに潜んでいるため、苗どこを作る前＝「種もみ」の時点で化学合成農薬を用いた消毒をおこな

います。対してめぐみちゃんは、農薬の代わりに「65℃・10分」の温湯消毒で種子消毒をおこなっています。

また、1999年より「農薬無散布でお米を作れるかどうか」組合員と共に無農薬実験田を開始。毎年生産者の努力で農薬成分量を減らし、現在は初期除草剤1回までに抑えています。めぐみちゃんの「実験田」は無農薬の可能性を探る区画で、田植え・稲刈りを通じ組合員と生産者の交流の場となっています。



### ◆共に歩む関係性

常総生協と東町特裁米耕作者組合は単なる"取引先"ではなく、組合員が安心して食べられるお米を共に作り続けてきました。そのめぐみちゃんが今年も新米として登場します。地場のお米を食べて、太陽と土の“めぐみ”をいただきましょう！

(稲刈り交流会のお知らせ)

日時：2022年9月24日(土) 9時45分～11時15分頃まで

場所：JA常総ひかり東町構造改善センター(住所：常総市東町2409)

用意：長袖シャツ、長靴、軍手、タオル、帽子、着替え、飲み物 \*カマはこちらで用意します。

★9月24日(土) 実験田の「稲刈り」に参加します。※申込締め切り日9/16(金)迄

コース名：\_\_\_\_\_ 組合員番号：\_\_\_\_\_ 組合員名：\_\_\_\_\_

参加人数：(大人：\_\_\_\_\_ 名、子ども：\_\_\_\_\_ 名)

2022年めぐみちゃん稲刈り交流会



右のQRコードまたはTEL・問合せフォーム等での申し込みも可能です。

### 福島県飯館村に飲料水をお届けしてきました！

8月5日(金)にフードバンクちばさんから託された水2.4tを福島県飯館村のどぶろくの生産者(商品名；どぶちえ)佐々木千栄子(ちえこ)さんの農家レストラン「気まぐれ茶屋ちえこ」と、飯館村社会福祉協議会にお届けしました。

7月に行われた「子ども支援プロジェクト」で、フードバンクちばさんにご協力いただいた際、「災害備蓄用の飲料水がたくさんあるので、福島に届けたいが、量が多く、送ることも難しい。運搬する手段がなくて…」とのお話しをお聞きし「ならば常総生協のトラックで運びます！」と申し出ました。コロナ禍で県境越えを余儀なくストップしていたので、2016年、2018年に続き、4年ぶりの再開です。前日の8/4(木)に、寄付してもらえる企業に寄り飲料水を頂きました。そして、フードバンクちばさんで保管している飲料水を積み込み、7月に生協でお預かりした分の飲料水も積み込み、重くなったトラックで、いざ、飯館村へ。



朝6時に出発。まずは社会福祉協議会へお届けし、8人がかりで搬入しました。気まぐれ茶屋にはお昼頃に到着し、“飯館村のお母ちゃん”佐々木千栄子さんに4年ぶりにお会いすることが出来ました。

身内に不幸があり「時々、悲しみに暮れる日もある」とおっしゃっていましたが、どぶろく作りをお孫さんが継承してくれる事になったこと、誰かと話していることで気が紛れると、私たちの訪問を笑顔で迎えてくれました。お水を運び終えた際には、労いと感謝、スイカと千栄子さんお手製の凍み餅をいただきました。(4年ぶりの凍み餅は美味しかったです！)

どぶちえは茶屋の向かい側にある蔵で作っています。どぶろく特区での酒造は特産品として

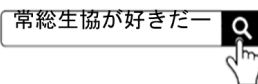




の規定があり、その地のお米を原材料にしなければなりません、原発事故以降、隣接する伊達市のコシヒカリで製造しているそうです。これから、お孫さんと二人三脚で取り組むどぶろく作りにエールを送り続けたいと思います。

この日は、二本松有機農法研究会の大内さんの人参畑にも伺わせていただきました。その詳細は、改めてお知らせします。

また、Facebook「常総生協が好きだー！」にも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



### \*\*\*大内さんからのお知らせ\*\*\*

#### ①映画「原発を止めた裁判長」

そして原発を止める農家たち

<http://saibancho-movie.com/index.html>

2022年9月10日（土）ポレポレ東中野

（大内さんが予告編から登場します）



#### ②福島百年未来塾

震災から11年 私たちの未来 創造中

9/17（土）13時30分～

@二本松市市民交流センター+オンライン

（大内さんが登壇します）



※②のオンライン参加についてはこちら↓↓↓ ぜひご参加ください

#### ▶問合せ先

NPO法人アユス仏教国際協力ネットワーク

TEL 03-3820-5831 event@ngo-ayus.jp



Eメールで  
event@ngo-ayus.jp まで  
もしくは  
お名前・電話番号・参加方法  
(会場かオンライン)をお知らせ  
ください。

福島訪問は、渡辺とみ子さんのいいたて雪っ娘かぼちゃのお手伝い以来、3年ぶりです。いいたて村の道の駅「までい館」では、お土産・オリジナルグッズのコーナーがあり、他県産の方が多かったものの、ほぼ福島県産、飯館村産のものに置き換わっていました。

道中の放射能空間線量モニタリング表示では1μS/h前後を示すところもありましたが、みどりのシートで覆われた除染土の山はところどころに見かけるだけでした。田畑は、生産しているところ、耕起だけしているところが入り交じり、何より気になったのは、3年前より、太陽光パネルに変わってしまっているところが増えていたことです。

やむを得ず、この土地での耕作をあきらめたけれども、原発に頼らないエネルギーを！と訴えているかのように設置された太陽光パネルに、その地で暮らす方々のそれぞれの事情を察すると胸が痛みました。

3.11で自分たちの暮らしや生活の糧を手放さなければならなかった方々がいること、いまなお、飲料水への不安から安心して飲める水を必要としていること、それでも歩み続けている方々に寄り添い、一緒に歩む生協であり続けたいと改めて感じた一日でした。

（常総生協理事長：増本）

## ～知ること未来が見える 戦争の加害 パネル展～

私の目当ては今回【特集展示】される、「軍都・広島と戦争加害」のパネルでした。私にとって「広島」は、「no more Hiroshima!」という言葉とセットになっていて、「世界で唯一の被爆国 日本」の、原爆を落とされた「被害都市 広島」というイメージしかなかったもので、これは知らなくちゃ！と思い、参加しました。会場でパネルの解説をしてくださった植松青児さんのお話を報告します。

-----植松青児さんによるパネル解説（報告：生協職員 木本）-----

◆「ノーモアヒロシマ」について◆「ノーモア」の対象は一般的には、「核兵器による大量殺戮」、つまり「広島への暴力」に対する「ノーモア」。でも、広島と戦争との関係は原爆だけではない。「8月5日までの広島」の歴史をひもとくと、そこには「広島への暴力」だけではなく、「広島からの暴力（広島からの侵略軍）」、「広島での暴力（強制労働動員）」もあったことがわかる。

◆軍都・広島からの暴力◆この錦絵は、1894年9月に明治天皇が広島に着いた様子を描いたもの(広島国会仮議事堂の図)。明治天皇は日清戦争の指揮を執るため1年以上も広島に滞在した。明治天皇だけではなく、伊藤博文首相、外務・大蔵・陸軍・海軍の各大臣が広島に入り、天皇直属の戦争最高指導機関＝「大本営」を広島城内に設置し、戦争の指揮を執った。同年10月には国会議員も広島に移り、陸軍第5師団の敷地内に建てられた仮設の国会議事堂で、第7回帝国議会が開かれた。日清戦争において、広島



は文字通り「臨時首都」だった。広島市には当時すでに産業用に作られた宇品港（うじなこう）があり（大きな軍用船が、接岸可能）、物流拠点としやすい地理的条件があった。1937年には東洋工業(現マツダ)が建設され、自動車だけでなく主として小銃を生産。1944年には三菱重工が2つの大工場を操業するなど、軍需工場や関連施設がどんどん作られた。戦争に勝利するたびに町は潤い「祝勝行事」（左の写真：南京陥落を祝う市民）が行われていた。軍機はここから戦地へと出撃し、1945年「8月5日」まで51年間広島は日本屈指の軍都だった。

◆広島での暴力◆軍都広島は大量の労働力を必要とした。しかし、中国全面侵略を開始した日本軍が100万人規模の成人男性を兵士として大陸に送り込んだため、日本国内では深刻な労働力不足が起こる。それを補ったのは15歳以下の少年少女、女性、そして朝鮮人労働者、強制連行された中国人だった。とりわけ「強制労働動員」された朝鮮人は8万人に達し、差別・暴力は常態化し、危険で過酷な労働で多くの人が亡くなった。朝鮮人女性は「遊郭（性産業）」にも動員された。広島で被爆した朝鮮人の数は約5万人とも言われ、そのうち約3万人が即死もしくはその年のうちに被爆死した。これは、42万人が被爆しそのうち約16万人が被爆死したという広島の被爆者全体の割合から考えても極めて高い。しかし彼らは「被爆者手帳」ももらえずに戦後も差別が続いた。

◆「ノーモア・ヒロシマ」概念をアップデートする◆広島は戦争で潤ったものの、対戦国から原爆の標的とされた。私たちは「広島への暴力」だけではなく、「広島からの暴力」、「広島での暴力」についても「ノーモア」と言うことが可能だ。戦争の「被害」を受けながら、戦争の「加害」に向き合ってきた先人もいる。先の戦争を生き延びた人たちが年老いて亡くなっていく中で、子孫である自分たちが、語り継がれたその歴史をもっともっと語っていくべきだと思う。いま、自衛隊の「南西シフト」の拠点として島全体が「軍事要塞」にされつつある琉球弧（八重島～薩南諸島の島々）は、日清戦争時の広島と似た道を「歩まされている」のではないかな。「ノーモア・ヒロシマ」を多面的にとらえることは、私たちの「いま」を見つめ直すことでもある。